

演題名：トンガ王国におけるプロジェクトをめぐるアクターへの考察

発表者の氏名：○河村サユリ 1) 河村康二 1) 遠藤眞美 2)

所属：1)南太平洋医療隊、カワムラ歯科医院 2) 日本大学松戸歯学部 障害者歯科学講座

本文：

目的

南太平洋医療隊は'97年よりトンガ王国において、歯科診療・歯科保健・機器剤の提供等の活動を行っている。小学生を対象とした歯科保健活動をトンガ語で笑顔を意味する”マリマリプログラム”とし、2006年より3年間 JICA との連携を得、展開している。当地カウンターパートとの好関係で対象とする小学校の拡大・活動経験者の増加を認める。JICA とは有期限の連携でかつ明確な成果を期待されている。

また本活動を担うトンガ歯科スタッフの労力が増大し、経済面からも見直しをするべく時期に来ていると考えられた為、アクター（利益関係者）となる人々に本活動の新たな開発から発展への機動力となるべく起爆剤としての提案を行った。

対象および方法

活動対象地域（トンガタブ本島・ハーパイ諸島）にある、小学校教師に質問紙により調査を行った。現在活動対象校のうち、トンガタブ本島 11校、ハーパイ諸島 4校では歯科健診・歯科保健指導時に教師に調査の意図と背景を説明し行った。また後日、トンガタブ本島の全公立小学校・幼稚園教師を対象に開催したワークショップ時に同様の調査を行った。質問紙は公用語である英語を使用し、4項目の質問からなり、短時間で記載できるものとした。調査にあたり JICA との連携は有期限であること、南太平洋医療隊の支援は継続されることを示した。

結果および考察

活動対象校 15校では、98名から回答を得、ワークショップ時には、77名から回答を得た。①マリマリプログラムを自身で継続していく意思の有無 ②将来、誰がこの事業を主体的に担うのがよいか（複数回答） ③プログラムを継続していく為のコストを一部負担することができるか、またどの位なら負担できるかを問い ④プログラムに対する意見を自由に記載する項目である。いずれの項目もワークショップ前の回答では1ないし2名の無回答がみられたが、ワークショップ後の回答では全項目に全員が答えていた。①では、85%以上の教師が継続を望み、児童にとってよいプログラムであると理解していた。②では、健康省をあげ政府サイドに担い手を求める回答が46%と多く、次いで歯科スタッフに期待する回答が38%であった。教師が主体となる項目を選択したものは15%、父兄という回答は11%であった。今後事業を展開していくうえで教師や父兄の協力は不可欠であり、少数ではあるが期待できる結果といえる。③有料・無料の問いでは、ワークショップ前には70%近くの教師が無料をあげ、ワークショップ後では80%以上の教師が有料でも続ける意思を示した。援助されることに慣れているトンガ王国において、この結果をそのまま指示することのリスクは否定できないが、今後更なる協議を継続することで、トンガ人による事業の継承がなされると思われる。

連絡先 河村サユリ カワムラ歯科医院

〒332-0016

埼玉県川口市幸町3-8-14 TEL 048-256-0118

E-Mail : sayuri2@postpet22.so-net.ne.jp

<http://spmt.jp/>